

「鉄道車両製造事業の再編」に関する 申6号 解明申し入れ交渉 1 回目 ①

交渉の冒頭、不誠実な回答について議論！！

【組合】

これまでの 20 年間の努力や不安を抱えている職員の組合員に対して、この回答は不十分だ。会社の考えを明らかに示すべきだ！！

「気持ちは同じ」と言ったが現場は違う！多くの組合員が不安を抱え、仕事に影響している。会社も現場に来て見えているはずだ！

若手は出向となる施策に対して、出向には反対すべきという強い声もある。組合員に返せる回答を示すべきだ！

職場から出された 400 項の意見を整理し、この要求に集約している。職場の想いが込められた要求に対して、会社の姿勢を示すべきだ！

【会社】

今回の事業再編はグループとして戦略的に行うものであり、表現しにくい事がある。意図的ではない。不安なく、新しく推移できればと思う気持ちは皆同じだ。

団体交渉で真摯に議論するのは当然であり、この回答だけでなく議論を通じて回答を補完していく。

特に若手の出向に対する気持ちは、現場に行って話を聞き十分わかる。今後、グループが向かうべき方向性を説明するのは大切だ。

回答が短いから会社が安易に考えているというわけでない。重い施策だと受け止めている。真摯に議論していきたい！

職場の想いを受け止め、真摯な議論をおこなうことを確認する！！

1. 鉄道事業者としてJR新津車両製作所を操業開始した目的を明らかにすること。また、これまでJR新津車両製作所が取り組んだ車両製造事業に対する会社の認識を明らかにすること。

【解明で明らかになったこと！】

- ・「一番付加価値が高いところを目指していく」「新しい技術力を持ち、保ち、発展させる」という操業開始当時の考え方は再編後も変わらない。
- ・ 4000 両を製造した実績や車両製造の原価構成など、同業他社と比較しても技術的なものを含めてJR東日本としての大きな成果だ。
- ・ 20年間の歴史の中で、4000両を製造した実績は日本一。
(旧東急車輛は60年間で8000両)
- ・ メンテナンスの声が車両製造にダイレクトに伝わる体制は再編後も変わらない。
- ・ 地場産業との関係は今後も変わらない。材料の調達は新潟と横浜のどちらで購入するかは検討課題。

1 回目 ② へ続く